



電子書籍について雑感

会員 小早川 真行 (57期)

とりあえず試してみた

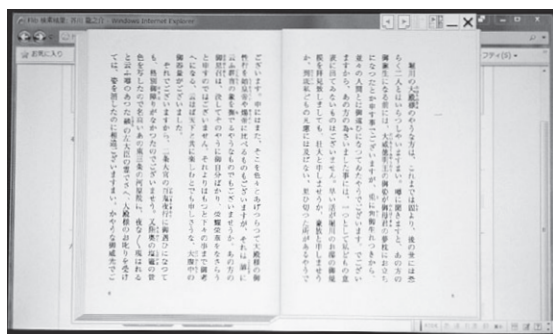
近頃話題の電子書籍というものをちょっと試してみた。ただ、本来なら電子書籍用端末を購入して試すところだが、とりあえず自分が持っているもので試したということである。

携帯電話で見てみた

まず手近な携帯電話。2010年夏モデルだが、電子書籍閲覧ソフトが2本プレインストールされている。若者向けのため(?)品揃えとして漫画が前面に押し出されている。携帯電話で漫画を読んだ感想は…辛い。画面が小さいため基本的に一コマずつ表示されるが、漫画のコマ割は大きさも形も千差万別。そのコマを読者の視線の想定順序に沿ってスクロールするため、一つのコマをスクロールして読むこともよくあり、イライラする。一方、小説は文章のみであり、横書きでも特に問題無く普通に読める。これは携帯電話と親和性が高い。電子書籍端末より軽く片手で持てるし、電車やバスの中で読むにはピッタリだ。ただし、一画面に表示される文字数や文字の大きさの問題はある。これは慣れの問題だが…。

ミニノートPCで見てみた

次にミニノートPC。2010年夏発売の機種だが、やはり閲覧ソフトが2本プレインストールされている。



ミニノートPCで小説を読むと…

小説を現実の本と同様の体裁の縦書表示で読むと、なかなか読みやすい。画面タッチで頁をめくるのも自然。問題は重さで、今回のミニノートPCは約700gと持ち続けるには少々重く、手が疲れる。これが電子書籍用端末で200gくらいだと快適であろう。

費用もさりながら品揃えが課題

電子書籍の利点は、何冊(?)でも持ち運びが楽という点。買うのが便利という点は、購入履歴を把握されるのが嫌だが、多くの人は気にしないのだろう。電子書籍が日本で流行るかどうか、費用面(端末の価格・本の価格・月額料金?)は当然として、誰もが一致して思うのは品揃えである。大手出版社が電子書籍版しか出さなくなれば嫌でも流行るだろうが、製紙・印刷・流通等、出版に関わる業界は大変だ。かといって産業構造の変化を拒否するのは「ラッドライト運動」か。便利というのは誰も抗し得ないところであり、欧米では意外とあっさり数年で「本といえば電子書籍」が常識になるかもしれない。日本では著作権法とか出版契約とか色々言われるが、地デジのように社会環境として強制的に移行させなければなかなか流行らない気がする。

まず、法整備か?

ところで日本で電子書籍と言えば現状むしろ「自炊」*のほうが話題かもしれない。「自炊業者(?)」に代行してもらうのが著作権法違反でも、便利というのは誰も抗し得ない。思えばYouTubeも違法だのなんなの言っている間に巨大産業になった。「権利者の正当な権利を守るためにまず法整備してから」という「正しい手順」でうまくいけば万々歳なのだが。

*編集部注：紙媒体である書籍・雑誌等を自分で裁断・スキャンして電子書籍化する行為のこと